

第16回 建築構造基準委員会 議事要旨

日時：令和2年9月3日（木）15:00～17:00
WEBシステムによる会議形式

1 開会

2 議事

(1) 令和元年房総半島台風を踏まえた建築物の強風対策について <報告>

- ・ガイドライン工法は、どのように定められたものか。
- ⇒建築基準法の基準風速を基に計算して、耐えられる許容耐力を持った屋根の緊結方法を定めていると伺っている。
- ・構造計算はしなくてもこれは守らなければならない、という位置づけになるのか。
- ⇒そのとおり。

(2) 屋根ふき材の緊結方法等の見直しについて <審議>

- ・技術解説書などが追加で発出されるのか。
- ⇒業界基準の瓦屋根のガイドラインをアップデートしていく予定であり、それも併用しつつ、情報を補完していきたい。
- ・戸建て住宅の確認申請時に、基準風速が幾つの地域か確認しなければならなくなるので、丁寧な資料提供等をお願いしたい。
- ⇒分かりやすくパンフレットや通知で示していくなどを考えていきたい。
- ・対象となる建物の数はかなりあると思われ、影響の大きい話である。出来るだけ混乱が起きないように手だてと、有効に機能するような方法とを、うまく両立していくことが重要。
- ・地表面粗度区分がⅡからⅢになる地域があり、基準が緩くなっているようにも見える。
- ⇒海岸線から200mを超えるエリアについて、高さ13m超の建築物については、都市計画区域内外で粗度にある程度差があるのではないかという前提で差がつけられていたが、房総半島台風の被害では、風圧力による被害に都市計画区域内外で特に大きな差がなかったことから、都市計画区域外であっても海岸線等から200mを超えたエリアについては粗度区分Ⅲに変更し統一を図ったものである。

今後、国交省、国総研・建研において、基準化に向けた準備などの手続きを進めていくことが了承された。

(3) その他<報告>

- ① 沿岸部での風圧力の実況を考慮した屋根ふき材の緊結方法の検討について（現状報告）
 - ・告示の改正原案では高さ13m以下のところは地表面粗度区分Ⅲにするとのことだったが、ガイドラインでお勧めの仕様を示すということか。
 - ⇒ガイドラインに強制力はないが、より耐力上の余裕のある仕様へ誘導する方針。
 - ・告示では、瓦屋根の留付けについて特別割増基準を定めないのであるか。

⇒建物ごと吹き飛ばしてしまったなどの被害が出ているわけではないため、告示の高さ 13m 以下の部分の地表面粗度区分Ⅲを変更することは考えていない。ガイドラインにおいて建築基準法と同等の瓦の緊結方法とともに、沿岸部でも耐えられるようなワンランク上の緊結方法も示されると認識している。

- ・ガイドラインでは、実験や計算により「このやり方であればこのような条件に合います」というものを示し、設計のときには改めて計算しないでそれを使えばよいとするのか。

⇒そのとおり。さらに、評価のための試験方法を提示する予定。

② 基準風速及び地表面粗度区分の違いに応じた小屋組の緊結方法の検討について（現状報告）

- ・接合部にかかる力を計算し、実験で確認したものと合うかチェックするということか。

⇒今回は基準風速と地表面粗度の組合せに対してどのような接合部仕様が求められるかという観点で情報を整えたい。（公財）日本住宅・木材技術センターの解説書の計算式に準じて検証する。

- ・屋根の勾配により随分荷重が変わってくる。そのようなものに対応したものになるのか。

⇒仕様規定的なものとして適用範囲はある程度絞られるが、少なくとも代表的なものについては示したい。

③ 基準風速の妥当性の検証について（現状報告）

- ・今回の作業は、2000年の改定時の作業とどのような関係になるのか。

⇒基本的には、当時採用した考え方と同じものを使って検討することとしている。

- ・千葉の例だけを見ても基準風速と実測値の差に随分ばらつきがあるが、単純に基準風速を超えているか否かだけを議論するのか。

⇒今回はその予定である。

④ 屋外に面する建具接合部の耐力試験・評価方法の検討について（現状報告）

- ・被害例は、サッシで受けた風圧の行き先となるしっかりした耐風梁が設計されていれば、全面的に倒れることがなかったかもしれない。低層の鉄骨造の非構造部材の取り付け方を整理し、低層鉄骨造の構造設計にも踏み込んだ普及活動が必要ではないか。

⇒設計者の団体やサッシ協会からご意見を伺った上で、どのように働きかけていけるか検討したい。

- ・自分のパーツだけきちんとしておけばよいわけではなく、間のインターフェイスのところや、力が伝わった先がどうなっているのかもとても大事になる。全体的なシステムとして考えていくことも含めて、実質的にいい解決策に導かれるように是非お願いしたい。

- ・構造体の溶接と比べてかなりばらつきが大きくなってしまおうと思われ、それをどう管理していくかがないと、かなり大きな幅の安全率を見なければならなくなるのではないか。

3 閉会

以上